

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY, 2. EURUSD, 3. GBPUSD) 2月10日(金曜)午後3時現在

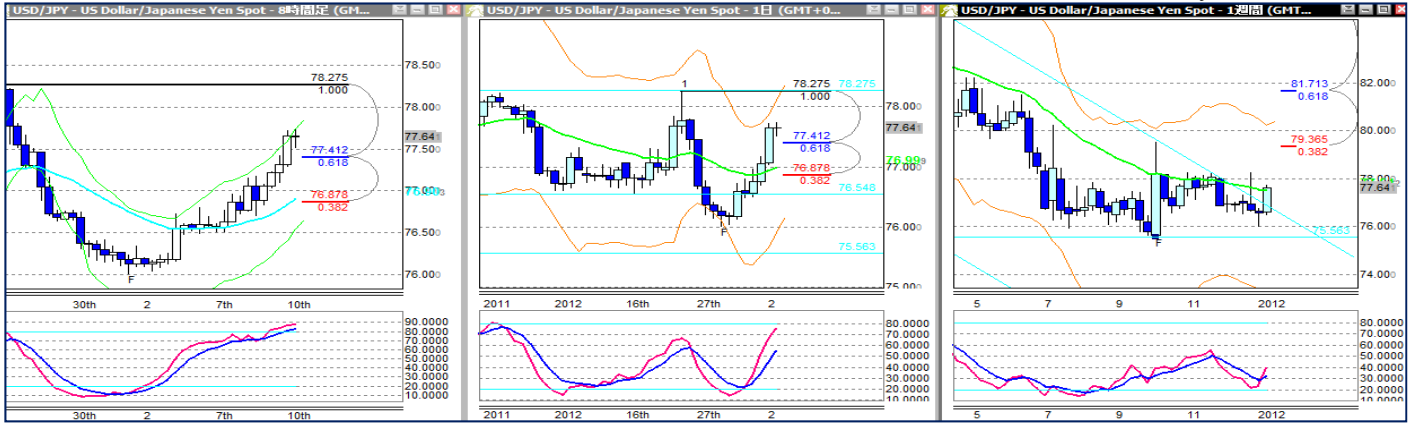
1. USDJPY 来週の予想レンジ 77.00~78.25 中期の予想 77.00~79.50

1. 日本の貿易赤字から始まり、円高要因が徐々に下げ落ちている
2. ギリシャ第2次支援が合意されれば、クロス円で円売りが強まり、USDJPYも上昇する可能性
3. テクニカルでも円売りに変化する可能性

USDJPY・8時間チャート

USDJPY・Daily チャート

USDJPY・Weekly チャート



期間	25 指数移動平 均線	DiNapoliオシレータ・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタン ス 1.	レジスタン ス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
USDJPY・8時間チャート	76.90	77.74	76.55	88.61	83.94	↑	77.41	76.87	77.74	78.28
USDJPY・Dailyチャート	77.00	78.10	75.91	75.59	55.06	↑	76.87	76.55	78.10	78.28
USDJPY・Weeklyチャート	77.54	80.25	73.13	39.37	32.36	↑	75.56	73.13	79.67	81.71

先週金曜日(2月3日)、米雇用統計では失業率が改善し、非農業部門雇用者数は増加し、さらに、米非製造業PMIは1年半ぶりの高水準となり、株価は上昇、リスクアセットは急上昇したが、逆に、安全資産のUSDとJPYは弱くUSDJPYは76.59で終了した。

今週は、週初めの6日(月曜)は76.59から取引が始まり、6日の安値76.49から9日には77.72まで上昇した。76.50近辺を底値に徐々に値を切り上げ、7日には外国為替平衡操作の実施状況が発表され、11月1日~4日で約1兆円近い円売り・ドル買いの覆面介入が実施されたことが判明し、円売りが強まり、8日の貿易収支では赤字額が拡大、安住財務相は「さらなる量的緩和は通貨の信用問題になる」と発言、上下に振れる動きとなった。9日にはドラギ ECB 総裁が日本・政府の単独円売り介入を牽制したが円高への動きはみられず。ユーロ圏財務相会合ではギリシャ第2次支援策の最終合意はなかったが、ギリシャ連立与党間で合意がみられ、ギリシャ政府とトロイカで合意、IMFもギリシャ政府と協議を再開し、安全資産のJPYはUSDと共に弱含みで推移している。もともと、USDJPY相場への関心は極めて薄く、逆にEURJPYやAUDJPYなどの円クロスが興味の対象となっており、円売りの流れが続いている。経済指標では、8日の経常収支は30350億円(予想3401億円 前回1385億円)、貿易収支は-1458億円(予想-1350億円 前回-5851億円)で円売りの材料となった。

来週は、20日は米国市場がプレジデント・デーで3連休を控えた週となり、週後半にはポジション調整が入りやすくなっている。また、ギリシャ政府がユーロ諸国に対して納得できる提案をし、ギリシャ第2次支援の最終合意ができるのかが非常に重要となっている。メイン・シナリオは、貿易収支の赤字化を意識した投機的な円売りと、積極的な海外直接投資による円売りと、ギリシャ債務交換協議と第2次支援の合意で、安全資産売りの流れに、円クロスで緩やかな円安が進み、結果としてUSDJPYも先の高値78.28を試し上昇が続く動きが考えられる。リスク・シナリオとしては、政府・日銀が積極的に円売り介入の実施ができず、最安値を試すべく投機的な円買いになることと、ギリシャ政府が何らかの理由で、ユーロ圏諸国の代表者に納得できる提案ができず、3月20日の大量償還を前にデフォルトやユーロ離脱のリスクが高まることで、そうなれば安全資産としての円が選好され、円クロスの下落到USDJPYも76.50に逆戻りする動きが強まる。

経済指標では、13日に第4四半期GDP速報値があり、日本の経済指標では数少ない変動要因の高い指標で、弱含みで推移している流れが加速するかは、この数字にかかっている。主要国の経済指標では、15日にBOEのインフレ報告書、FOMC議事録、独第4四半期GDP速報値、17日には消費者物価指数の発表があり、重要となっている。

テクニカル 8時間チャートは、EMA76.90でこれを下限に上昇トレンドに入っている。ストキャスティクスは買いを継続しながら買われ過ぎゾーンに入り、短期的に調整の売りが入りやすくなっている。上値のポイントは77.74、78.28、下値のポイント77.41、76.87。

Dailyチャートは、EMA77.00で、これを上抜けてから買いの流れが続いている。ストキャスティクスは買いを継続している。上値のポイントは78.10、78.28、下値のポイントは76.87、76.55。

Weeklyチャートは、EMA77.54で、この水準を今現在割り込んでおり、週終値で上抜けて終了すれば、買いの流れが続く可能性が高くなる。ストキャスティクスは買いへ変化。上値のポイントは79.67、81.71、下値のポイントは、75.56、73.13。

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY、2. EURUSD、3. GBPUSD)

2月10日(金曜)午後3時現在

2. EURUSD 来週の予想レンジ 1.3050~1.3400 中期予想レンジ 1.3000~1.3650

- ギリシャ第2次支援の合意の有無が、目先の重要事項で、相場の流れも変わってくる
- 極短期では上値は重くなる可能性も
- 終値ベースで1.3400を超えると新たな買いの流れに変化する可能性

EURUSD・8時間チャート

EURUSD・Daily チャート

EURUSD・Weekly チャート



期間	25 指数移動平均線	DiNapoliオシレータ・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタンス 1.	レジスタンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
EURUSD・8時間チャート	1.3189	1.3396	1.3131	70.02	78.49	↓	1.3226	1.3168	1.3321	1.3403
EURUSD・Dailyチャート	1.3098	1.3489	0.2833	79.39	77.03	→	1.3098	1.3054	1.3489	1.3627
EURUSD・Weeklyチャート	1.3399	1.3596	1.2182	69.96	40.12	↑	1.2624	1.2405	1.3626	1.4247

先週金曜日(2月3日)、米雇用統計では失業率が改善し、非農業部門雇用者数は増加し、さらに、米非製造業PMIは1年半ぶりの高水準となり、株価は上昇、リスクアセットは急上昇し、安全資産のUSDは売られ、EURUSDは一時1.3205まで上昇、1.3157で終了した。

今週は、週初めの6日(月曜)は1.3113で取引が始まり、6日の1.3027を底値に9日には1.3321まで上昇、週末に期待されたギリシャ債務交換協議の合意もなく、先行き悲観的発言も多くデフォルト懸念に1.3027まで値を下げた。7日には渦中のギリシャ短期債入札は順調に消化され、市場は安心を取り戻し、ギリシャ政府は第2次支援受け入れに必要な合意文章の作成準備をしているとの報道に急伸し、ギリシャ第2次支援が実行される可能性に1.32台まで上昇。8日にはユーロ圏財務相会合が9日に開催との報道に、1.3288まで上昇、9日には、ユーロ圏財務相会合ではギリシャ第2次支援策の最終合意はなかったが、ギリシャ連立与党間で合意がみられ、ギリシャ政府とトロイカで合意、IMFもギリシャ政府と協議を再開し、ECB理事会は予想通り1.0%の政策金利の据え置き決定、記者会見で景気見通しの改善を示唆、EUR買いの流れが続き、1.3321まで上昇した。

来週は、20日は米国市場がプレジデント・デーで3連休を控えた週となり、週後半にはポジション調整が入りやすくなっている。また、ギリシャ政府がユーロ諸国に対して納得できる提案をし、ギリシャ第2次支援の最終合意ができるのかが非常に重要となっている。メインシナリオは、ギリシャ債務交換協議と第2次支援の合意で、ユーロ圏債券市場は安定し、1.34台までの上昇と、2月28日に予定されている第2回目のECBの期間3年物長期資金供給(LTRO)で、さらなる安定が予想され、1.36台までの上昇が考えられる。リスクシナリオは、ギリシャ政府が何らかの理由で、ユーロ圏諸国の代表者に納得できる提案ができず、3月20日の大量償還を前にデフォルトやユーロ離脱のリスクが高まることで、そうなれば、1.3050を目指し下落し、深刻化すれば1.2890まで値を下げる可能性も出てくる。

経済指標では、14日の独ZEW景況感調査、15日のユーロ圏第4四半期GDP・速報値、貿易収支が注目され。主要国の経済指標では、15日にBOEのインフレ報告書、FOMC議事録、独第4四半期GDP・速報値、17日には消費者物価指数の発表があり、重要となっている。

テクニカル 8時間チャートは、EMA1.3189で、この水準を下限に上昇トレンドが続いている。ストキャスティクスは売りへ変化し、短期的に売りの流れに変わる可能性が出ている。上値のポイントは1.3321、1.3403、下値のポイントは1.3226、1.3168。

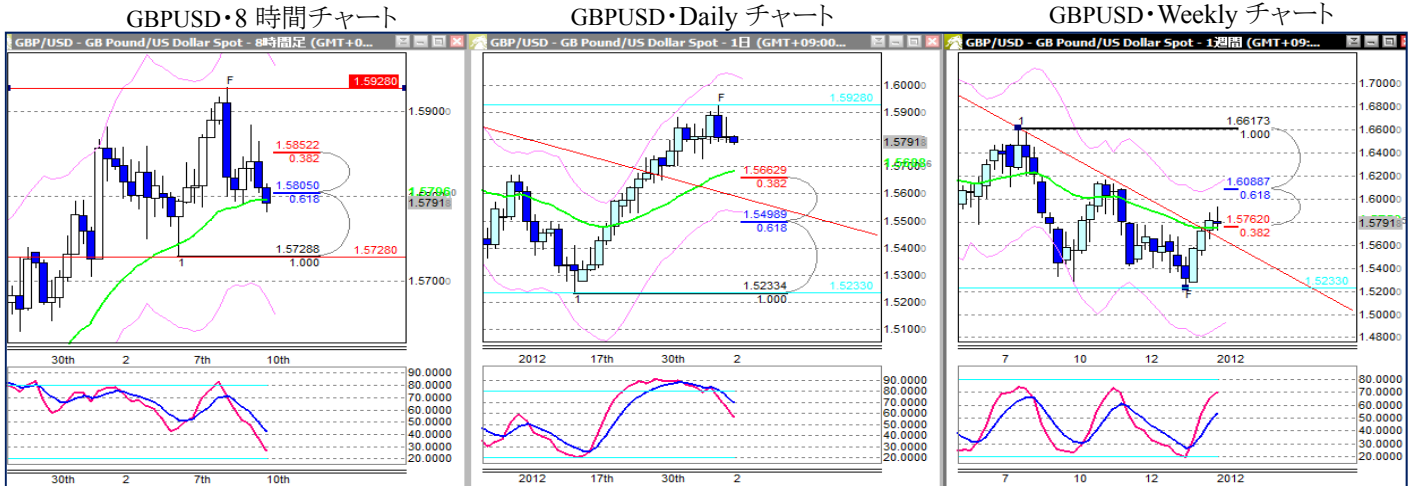
Dailyチャートは、EMA1.3098で、この線を下限に上昇トレンドが続いている。ストキャスティクスはサインがはっきりせず、買われ過ぎゾーンに停滞している。上値のポイントは1.3489、1.3627、下値のポイントは1.3098、1.3054。

Weeklyチャートは、EMA1.3399で、この水準を上限に下降トレンドが続いている。ストキャスティクスは買いへ変化し、EMAを週終値ベースで抜けてくれば、新たな上昇トレンド変化する可能性が出ている。上値のポイントは1.3626、1.4247、下値のポイントは1.2624、1.2405

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY、2. EURUSD、3. GBPUSD) 2月10日(金曜)午後3時現在

3. GBPUSD 来週の予想レンジ1.5650~1.5900 中期予想レンジ1.5650~1.6100

1. ギリシャ第2次支援の合意の有無が目先の重要事項で、相場の流れも変わってくる
2. EURGBPの上昇リスクに注意
3. 短期的な売りと長期的な買いの流れに挟まれている



期間	25 指数移動平 均線	DiNapoliオシレータ・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタンス 1.	レジスタンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
GBPUSD・8時間チャート	1.5796	1.5974	1.5680	26.18	42.29	↓	1.5729	1.5680	1.5852	1.5928
GBPUSD・Dailyチャート	1.5688	1.6040	1.5535	56.34	69.47	↓	1.5663	1.5500	1.5920	1.6040
GBPUSD・Weeklyチャート	1.5759	1.6129	1.4884	69.73	54.03	↑	1.5704	1.5640	1.6089	1.6129

先週金曜日(2月3日)、米雇用統計では失業率が改善し、非農業部門雇用者数は増加し、さらに、米非製造業PMIは1年半ぶりの高水準となり、株価は上昇、リスクアセットは急上昇し、GBPUSDは上下に動きながらも元の水準近くの1.5812で終了した。

今週は、今週は、週初めの6日(月曜)は1.5804で取引が始まり、6日の1.5729を安値に、8日には1.5928まで上昇した。6日は週末に期待されたギリシャ債務交換協議の合意もなく、EURUSDの下落の流れに安値1.5729まで下落したが、終値ベースでは1.58台を回復した。7日には、欧州債券市場が上昇、ギリシャ政府は第2次支援受け入れに必要な合意文章の作成準備をしているとの報道に、EURUSDが急伸、GBPUSDも1.5903まで上昇。8日にはユーロ圏財務相会合を開催するとの報道に、EURUSDは上昇、逆に、EURGBPの大口売り(GBP買い)に、GBPUSDは1.5928の今週の高値まで上昇、9日には貿易赤字額は-71.11億ポンド(予想-87億ポンド 前回-89.08ポンド)、鉱工業生産高は予想上回る、前月比0.5%(予想0.2% 前回-0.5%)、製造業生産は予想を上回る、前月比1.0%(予想0.4% 前回-0.1%)と全てが強く、上昇したが、EURGBPの買い(GBP売り)に1.59台を達成できずにいた。9日のECB金融政策委員会では、政策金利0.5%の据え置きと、資産買入枠500億ポンドの拡大が決定されたが、予想通りで反応は鈍かった。

来週は、20日は米国市場がプレジデント・デーで3連休を控えた週となり、週後半にはポジション調整が入りやすくなっている。また、ギリシャ政府がユーロ諸国に対して納得できる提案をし、ギリシャ第2次支援の最終合意ができるのかが非常に重要となっている。メインシナリオは、EURUSDの流れにフォローすることで、ギリシャ債務交換協議と第2次支援の合意で、ユーロ圏債券市場は安定し、1.6040までの上昇が考えられる。リスクシナリオは、ギリシャ政府が何らかの理由で、ユーロ圏諸国の代表者に納得できる提案ができず、3月20日の大量償還を前にデフォルトやユーロ離脱のリスクが高まることで、EURUSDの下落に連動し1.5660→1.5500までのリスクも考えられる。

経済指標では、14日に消費者物価指数、小売物価指数、15日にBOEインフレ報告書、17日に小売売上高、主要国の経済指標では、15日にBOEのインフレ報告書、FOMC議事録、独第4四半期GDP・速報値、17日には消費者物価指数の発表があり、重要となっている。

テクニカル8時間チャートは、EMA1.5796で、この線を下限に下げ止まっている。ストキャスティクスは売りを継続し、引き続き大枠で1.5700~1.5900のレンジに収束している。上値のポイントは1.5729、1.5680、下値のポイントは1.5852、1.5928。

Dailyチャートは、EMA1.5688で、この線を下限に上昇トレンドが続いている。ストキャスティクスは売りを継続し、下値トライの動きも予想される。上値のポイントは1.5928、1.6040、上値のポイントは1.5928、1.6040、下値のポイントは1.5663、1.5500。

Weeklyチャートは、EMA1.5759で、この線を下限に取引が続いているが、上昇力は弱い。ストキャスティクスは買いを継続している。上値のポイントは1.6089、1.6129、下値のポイントは1.5704、1.5640。

USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、  
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス。為替レート・金・原油価格は GFT 社の取引レート。  
本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com、ロイター社、ブルームバーグ社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com、ブルームバーグ社

外国為替保証金取引(FX)及びCFDには、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。[www.gftforex.co.jp](http://www.gftforex.co.jp)

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011